

海域区分（日本海海域と瀬戸内海海域）

• 日本海海域

自然海岸・急峻な磯

藻場：ガラモ場が主

干潟：なし

• 瀬戸内海海域

人工海岸・埋め立て

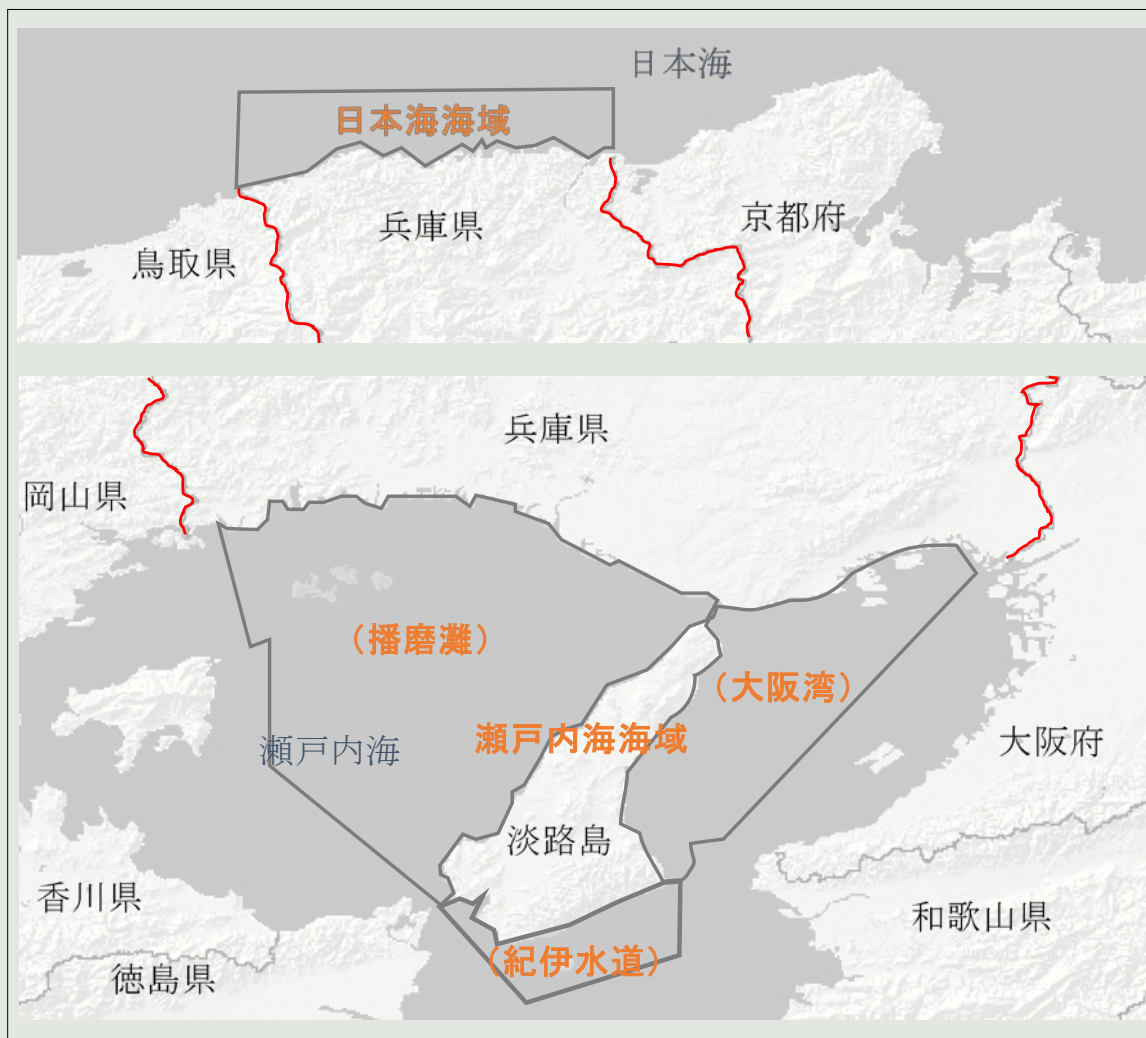
栄養塩濃度の低下

藻場：カジメ場が主

が元場・アモ場

干潟：わずかに残存

浅場：水深10m以浅



日本海海域 藻場ビジョン（経年変化と目標）

藻場面積

数値は減少 ➡ 大きな変化なし

調査手法の差
漁業者からの聞き取り

〈長期目標〉
現状維持

海域	調査年	藻場面積 (ha)				
		アrame・ガジメ場	ガラモ場	アマモ場	その他	合計
日本海	平成2年 ※1	17.7	519.4	0.0	13.6	550.6
	現状：平成28年 ※2	16.1	415.8	5.3	0.6	437.8

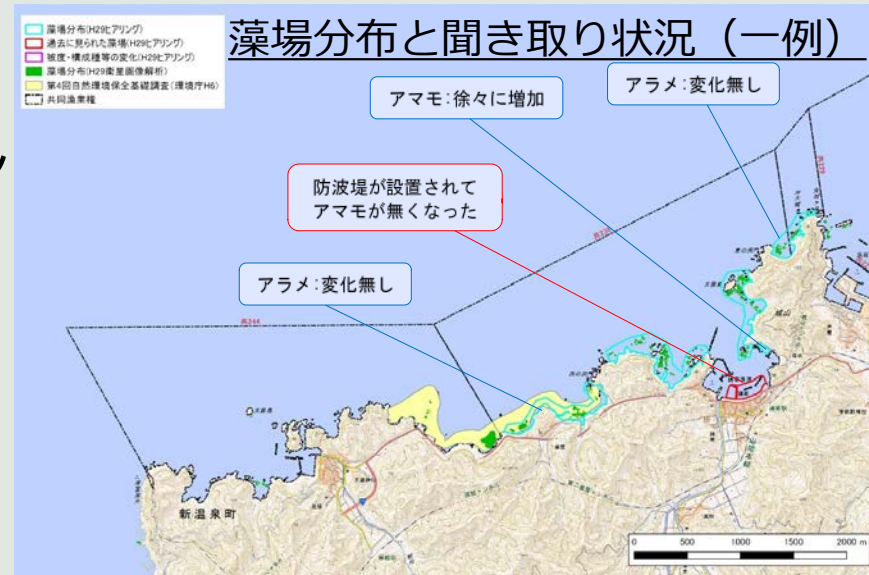
※1：ヒアリング調査+現地調査 ※2：衛星画像解析+現地調査

海域環境

水温、透明度、塩分 ➡ 変化なし

食害生物

アゴ、メジナ、ウニ、アメフラシ
➡ 磯焼けに至らず



日本海海域 藻場ビジョン（保全及び創造対策）

水産有用種の増殖を目的とした、藻場の保全・創造対策の効率的な手法及び場の検討

物理環境調査

藻場増減状況調査

生物環境調査

- ・ 資源量増大を図る水産有用種の選定
- ・ それらの増大に資する藻場の選定

《藻場保全・創造対策を検討する海域設定》

藻場を保全する海域

- ① 再生産に寄与する藻場
- ② 水産利用されている藻場

藻場の創造対策を検討・実施する海域

- ① 水産利用が期待
- ② 藻場が衰退（衰退要因解消により藻場再生可能）
- ③ 藻場維持のメンテナンスが容易
- ④ 将来の水温上昇（食害活性増加）への耐性

A. 日本海海域全域

保全手法

- ・ モニタリング

- B-1. 津居山地区 ガラモ場を対象
B-2. 香住地区 ガラモ場、アマモ場を対象
B-3. 浜坂地区 アラメ・カジメ場、アマモ場を対象

保全・創造手法

- ・ 増殖礁(基質)設置

マダイをはじめ、藻場を利用する水産有用資源の増大

瀬戸内海海域 藻場・干潟ビジョン（経年変化）

藻場面積

透明度：上昇

数値：減少

調査手法の差
漁業者からの聞き取り

藻場衰退

海域	調査年	藻場面積 (ha)						
		アラム・ガジメ場	ガラモ場	アマモ場	テングサ場	カメ場	その他	合計
瀬戸内海	平成2年 ※1	593.7	89.0	127.7	15.4	234.5	160.6	1220.8
	現状：平成25-27年 ※2	422.0	93.5	77.8	41.9	74.2	126.4	835.8

※1：ヒアリング調査+現地調査 ※2：衛星画像解析+現地調査

干潟面積

数値：増加？

調査手法の差
二枚貝、エビなどの漁獲低迷

浅場含め生産力低下

海域	調査年	干潟面積 (ha)					合計
		前浜	河口	潟湖	人工干	その他	
瀬戸内海	平成2年 ※1	51	5	0	0	0	56
	現状：平成27年 ※2	タイプ分けされていないため内訳は不詳					98.5

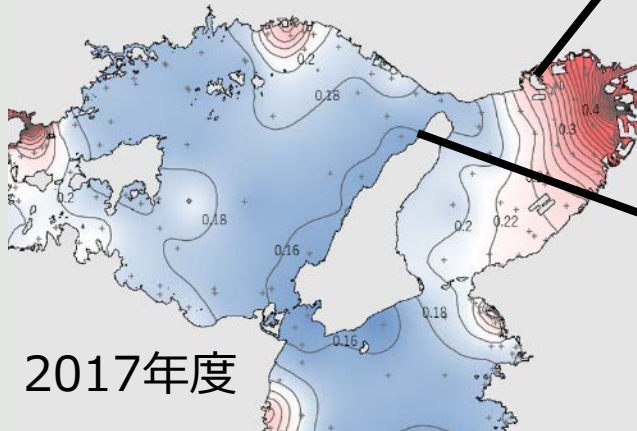
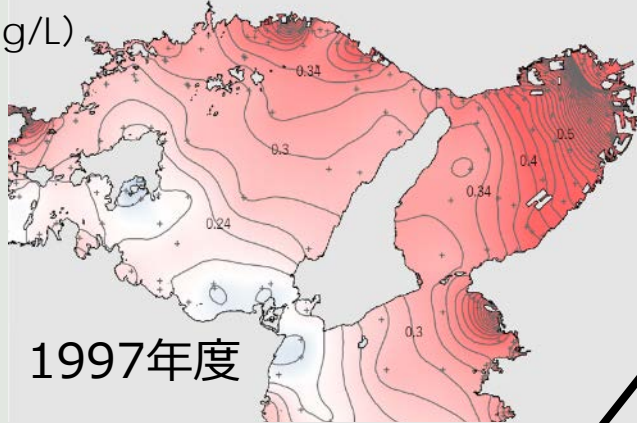
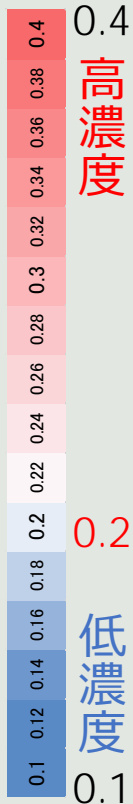
※1：ヒアリング調査+現地調査 ※2：衛星画像解析+現地調査

瀬戸内海海域 藻場・干潟ビジョン (変化要因)

・栄養塩不足 (特に窒素)

0.2mg/Lを下回る → 生物生産：低

全窒素 (mg/L)



高栄養海域			
	試験10日後(左)と4ヶ月後(右)の付着板		試験2ヶ月後のアサリ
貧栄養海域			

[出典] 瀬戸内海の生態系維持に必要な水質 (栄養量) (京都大学名誉教授 藤原建紀) : 令和元年11月14日開催 瀬戸内海環境保全セミナー発表資料

・その他

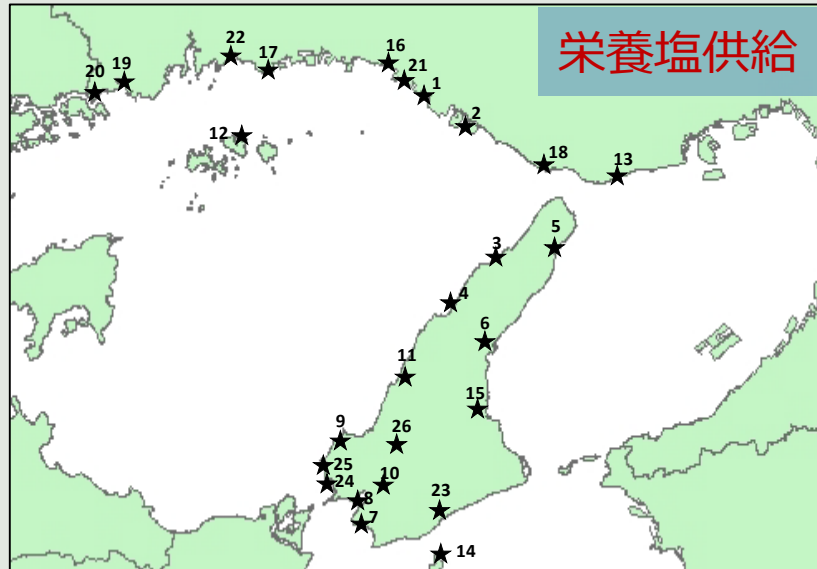
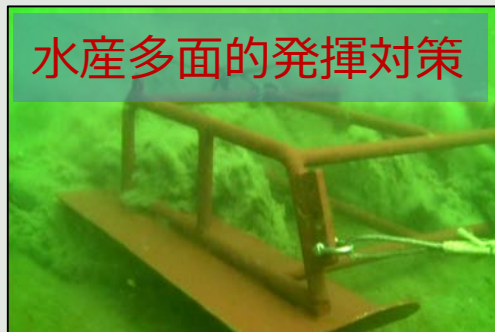
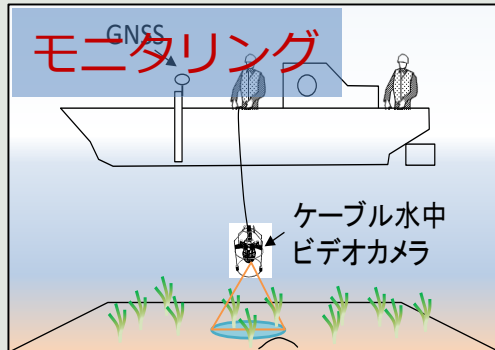
底質悪化 (基質・土砂供給減、硬化) 水温上昇 (摂餌活性増)

瀬戸内海海域 藻場・干潟ビジョン（目標と対策）

〈目標〉

- 栄養塩類の濃度改善（長期目標）
全窒素 0.2mg/L以上、全リン 0.02mg/L以上
- 現状維持（当面の目標）
藻場面積 約850ha、干潟・浅場の生産力

〈対策〉



栄養塩管理運転を実施している
下水処理施設★（2020年3月現在）

瀬戸内海海域 藻場・干潟ビジョン（藻場の保全・創造）

水産有用種の増殖を目的とした、藻場の保全・創造対策の効率的な手法及び場の検討

物理環境調査

藻場増減状況調査

生物環境調査

- ・ 資源量増大を図る水産有用種の選定
- ・ それらの増大に資する藻場の選定

《藻場保全・創造対策を検討する海域設定》

藻場を保全する海域

- ① 再生産に寄与する藻場
- ② 水産利用されている藻場

藻場の創造対策を検討・実施する海域

- ① 水産利用が期待
- ② 藻場が衰退（衰退要因解消により藻場再生可能）
- ③ 藻場維持のメンテナンスが容易
- ④ 水温上昇（近年の摂食活性増加、将来の食害活性増加）への耐性

A. 瀬戸内海海域全域

保全手法

・ モニタリング

B-1. 大阪湾（岩屋、洲本、成ヶ島）

ガラモ場、カジメ場を対象

B-2. 播磨灘（明石、淡路、西部）

アマモ場、ガラモ場を対象

B-3. 紀伊水道（福良、阿万、灘、由良）

アマモ場、カジメ場を対象

保全・創造手法

・ 海底耕耘 ・ 食害対策 ・ 増殖礁（基質）設置

メバル類・キジハタ・マダイをはじめ、藻場を利用する水産有用資源の増大